

# アジア史専攻 2018 年度卒論中間報告会のお知らせ

2018.11.2 アジア史研究室

下記の要領で、毎年恒例のアジア史専攻卒論中間報告会をおこないます。各ゼミから1名ずつ卒論の概要について発表するので、4年生はもちろん、3年生も授業がある人以外は全員出席し、今後の参考にしてください。2年生の出席も歓迎します。

## 記

日時：2018年11月12日（月） 9：00～10：40  
会場：駿河台キャンパス リバティタワー1126教室

## プログラム

### 卒論中間報告

1. 内山弘毅：中国式都城における宮闕北詰配置の考察
2. 原野乃佳：英雄叙事詩マナスにみるクルグズの世界—シャマニズムとイスラームの混淆（仮）
3. 高須大貴：陶行知の教育思想についての考察—1913年～1931年を中心に—
4. 大滝菜々子：1920～30年代における京城の都市計画から見る二重構造（仮）
5. 鎌倉滯：現代インドネシアの“宗教問題”の契機—建国からスハルト期について（仮）
6. 卒論執筆要項（最終版）説明

報告者持ち時間は、**発表12分+質疑応答3分**の計15分（時間厳守）。レジュメは報告者が各自90部を用意すること（教材用印刷機も使えるので、準備については指導教員と相談すること）。パワーポイントを使用する場合は、事前に知らせてください。 以上